

はつらつセンターの ケアマネジャー



市議会

今回は、はつらつセンター（地域包括支援センター）のケアマネジャーの皆さんにお集まりいただき、ケアマネジャーになったきっかけや、やりがいなどについてお話を伺いました。

高齢者の方たちの人生を追体験しているような
ところがあつて、自分の糧になっています

〈どのような仕事をしていますか？〉

■私たちは主任介護支援専門員なので、ケアマネジャーのサポートとか、ネットワークづくりが大きな柱の一つです ■介護予防計画書といまして、要支援1と要支援2の方のプランを作っています ■基本的には65歳以上の方の総合相談の窓口になっています ■市民の方から受けた相談を適切な機関につなぐ役割を担っているのかな

〈ケアマネジャーになったきっかけは？〉

■介護保険が始まる時期に、これから介護は社会でやるんだと夢を描き、希望に満ちた資格取得でした ■在宅でその人らしい生活が送れるようなプランと一緒に考える仕事に惹かれて ■出産の後、介護施設に再就職したけれど、子どもがいるので、夜勤のないケアマネジャーの資格を取りました ■ケアマネジャーという新しい資格ができるということ

で、子育てと仕事の両立ができるかなと思って

〈ケアマネジャーのやりがいは？〉

■高齢者の方たちの人生を追体験しているようなところがあつて、自分の糧になっています ■利用者と事業所をつなぐような仕事で、チームで支えるというのがやりがいです ■相談して良かったと笑顔が見れたり、相談者が穏やかな表情になると自分のやった仕事に合っていたのかなと思います ■自分の人



参加者の自由で活発な発言を促す観点から、氏名等の掲載は控えています。



生だけでは体験し得ないことも聞けて、人生の幅が広がるような、自分の価値観だけで判断しづらいけないなと

〈これからケアマネジャーを目指す人に届けたい言葉はありますか？〉

■いろいろな人生の先輩と関われる本当に魅力ある仕事です ■頭を使う仕事だと思っています。あとはコミュニケーション。ワークライフバランスといいますが、スケジュールを調整しやすいです ■知識を得れば得るほど、自分にブランド価値がついていきます ■自分で仕事をコントロールできるので、女性や子育てしている方にいいんじゃないのかな

〈市議会や市に期待することはない？〉

■市独自で報酬の上乗せができれば、もう少しやり手が集まるかな ■歩道にベンチとか木陰があるといいな ■もっと多くの議員に関心を持ってもらえたらいいな

● 第1回臨時会議 3月定例会議 議案審議 ●

あきる野市の こんなことが決まりました。

第1回臨時会議 1月17日
3月定例会議 会議期間36日間 2月20日～3月27日

第1回臨時会議の議案は	
市長提出議案……………	1件
3月定例会議の議案は	
諮問……………	1件
市長提出議案……………	28件
陳情……………	1件
議員提出議案……………	2件
委員会提出議案……………	2件
動議……………	1件

今号では
この中から
6つを **Pick up**

全ての議案等の内容と結果は、あきる野市ホームページをご覧ください。議会事務局へお問い合わせください。

〈議案第3号〉 あきる野市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

Pickup 2 市議会議員の報酬額を引き上げます。

市議会議員の報酬額について、議長は51万円から53万円に、副議長は45万6千円から47万4千円に、常任委員長及び議会運営委員長は44万1千円から45万9千円に、その他の議員は43万3千円から45万円に引き上げます。

こんな意見が出ました。

意見 議員自身が報酬額に関する意見を述べることは控えるべきだと考えており、特別職報酬等審議会による第三者の目線での適正な報酬額の決定が望ましいと考える。報酬額の引上げや引下げについては、審議会の判断に従うべきであり、今後も定期的に審議会を開き、客観的なデータに基づいた議論が行われることを期待し、賛成する。

意見

民間の収入もほとんど上がっていないと感じており、議員報酬が市民からの税金であることを考えると、賛成できない。



〈議案第1号〉 令和6年度あきる野市一般会計補正予算(第7号)

Pickup 1 ふるさと納税に関する補正予算が可決されました。

ふるさと納税の寄附件数が増加したことに伴い、歳入が3845万円、返礼品に係る経費として、歳出が1846万円それぞれ増額となります。

こんな質問が出ました。

A Q 令和6年度の寄附総額と事業経費の見込みは。
個人版ふるさと納税の寄附金の総額は1億1235万1千円の見込み。また、事業経費は人件費を含めて約5千6百万円となる。

AQ

今後の市の方針は。他市へのふるさと納税が増えることが想定されるため、返礼品数を増やすなどの更なる取組が必要。また、地域産業の活性化のためにも、多くの事業者に参加してもらえようという声掛けをしながら、積極的に取り組んでいきたい。

A Q

寄附額が大きく伸びた理由をどのよう分析するか。
返礼品の品目数を令和5年度末時点の73品目から現在は252品目まで増やしたこと。また、令和6年度から現地決済型のふるさと納税を導入し、宿泊施設や飲食店、ゴルフ場での利用が大きく伸びていることが主な要因と考える。



〈議案第4号〉 あきる野市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

Pickup 3 職員の手当を改定します。

職員の地域手当を10%から16%に段階的に引き上げるとともに、配偶者及び子に係る扶養手当などを改定します。

こんな質問が出ました。

A Q 地域手当の見直しについて、都内26市の状況は。
他市でも3月議会で審議中のため、見通しの集計になるが、令和7年度中は経過措置の年度であり、国基準と同様の割合で支給する予定の市が本市も含め16市、国基準を上回る割合で支給する予定の市が9市、国基準を下回る割合で支給する予定の市が1市であると把握している。

A Q

職員組合との事務折衝において出された意見は。
今回の改定内容は、扶養手当総額としては引上げの改定であること。また、地域手当についても国基準に合わせた引上げであることから、反対意見はなかったと承知している。



Pickup 4

国民健康保険税率を引き上げます。

被保険者数の減少や社会保険の適用拡大の影響などによる保険税収入の減少により財源不足が見込まれるため、保険税を平均で8.9%引き上げます。

こんな質問が出ました。

Q 国民健康保険運営協議会での主な意見は。

被保険者の減少に伴い減収が見込まれる中、税率の引上げはやむを得ないとの意見があった一方、年金生活者などの負担が増え、生活を圧迫するため、厳しいとの意見があった。結論としては、税率引上げの改正はやむを得ないが、制度上の課題があることから、国や東京都への要望活動をしっかり行うべきとの意見も添えられた。

Q どのように国や都へ要望しているのか。

A 国には医療保険制度の一本化や国庫負担割合の引上げを、都には国への働き掛けと独自の財政支援を、それぞれ市長会を通じて要望している。



Pickup 5

土地区画整理事業の歳入歳出予算等を見直します。

歳入は保留地の販売実績が見込みを下回ることで、歳入はガス工事負担金の市負担金が不要となったことからそれぞれ減額します。また、事業期間の延伸に伴い事業推進業務委託費の限度額を増加します。

こんな質問が出ました。

Q これまで順調であった保留地の売却が不調になった理由は。また今後の対応は。

A 主な要因としては、面積が広く価格の高い画地が多かったこと、販売時期が慌ただしい年末年始後の1月であったこと、地権者が所有画地の販売を始め競合物件が出たこと、住宅ローン金利上昇の報道により購入意欲が低下したことなどがあると分析している。今後は、課題に即した対応を検討、実践することにより、残りの24画地を完売していきたいと考えている。



Q 株式会社オオバとの事業推進業務委託の債務負担上限額は12億5千万円だったが、トータルでいくらになるのか。

A 総額で15億4011万6千円となる。

Pickup 6

あきる野市公共交通に関する条例を制定します。

あきる野市における公共交通に関する基本的事項を定め、公共交通の利用を総合的に促進するための条例を制定します。

こんな意見が出ました。

意見 公共交通等調査特別委員会では、多くの議論が行われたが、意見がまとまらない中、持続可能な地域公共交通の推進が急務であるため、このタイミングで議案が提出されたことは重要なステップだと感じ、賛成する。

意見 第5条第3項は、言わば公共交通の実施計画については、無批判なまま、議会に一定の参加義務を課しており、明らかに議会基本条例に反する。特別委員会でもう一度提案し、議論をして決めていく問題だったと思う反対する。



主な議案等に対する会派の賛否一覧

議案等 番号	件 名	議決 結果	自由民主党 志清会 (11人) ※	公明党 (3人)	日本共産党 あきる野 市議団 (3人)	明るい未来 を創る会 (2人)	くさしぎ (1人)	リメンバー (1人)
議案 1	令和6年度あきる野市一般会計補正予算 (第7号)	可決	○	○	○	○	○	○
議案 3	あきる野市議会議員の議員報酬及び費用弁償 等に関する条例の一部を改正する条例	可決	○ (1人退席)	○	×	○	×	×
議案 4	あきる野市職員の給与に関する条例の一部を 改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○
議案 11	あきる野市国民健康保険税条例の一部を改正 する条例	可決	○	○	×	○	×	○
議案 20	令和6年度あきる野市秋多都市計画事業武蔵 引田駅北口土地区画整理事業特別会計補正予 算（第3号）	可決	○	○	×	○	×	○
議員提出 議案 7-1	あきる野市公共交通に関する条例	可決	○	○	×	退席	×	×
陳情 7-1	原油・物価及びエネルギー価格等高騰に伴う 中小企業支援策の実施を求める陳情書	不採択	×	×	○	○	○	○

※ 議長は賛否に加わらない。

○：賛成 ×：反対

がん検診事業経費(衛生費)
1億4390万円

Q がん治療による外見の変化に対するアピアランスケア用品は、医療用ウィッグや胸部補整具等様々なものがあるが、費用助成の内容は。



A 外見の変化により購入または借受けをした人に対して助成する。医療用ウィッグ、毛付き帽子、人工乳房や補正下着などが対象。1回1万円上限、同一の人からの申請は2回まで。がん治療を確認できる書類やケア用品の購入等が分かる書類等を添付してもらう予定。

Q 具体的な要件やルールは。

A 必要書類の添付のほか、購入又は借受けした日から1年以内に申請してもらう。一生涯に2回となる。

産後家事・育児支援事業経費(民生費)
487万円

Q 事業の周知が十分でないとの声を聞いたが、更なる周知についての見解は。



A 現在は、母子健康手帳交付時の面談、妊娠8か月時のアンケート及び新生児訪問において事業の紹介をしているが、更に4か月検診やこんにちは赤ちゃん訪問等でも周知が行き届くように努める。また、1歳未満の乳児が関わる子育てひろば等の委託先にも周知を依頼し、申請については電話での相談にも対応するようにしたい。

新学校給食センター共同整備事業経費(教育費)
6億4595万円

Q 新学校給食センターの事業費総額の見込みは。

A 約55億9千万円(配送車両の費用を除く)を見込んでいる。



Q あきる野市と日の出町のイニシャルコストの負担割合は。

A あきる野市が約65%、日の出町が約35%。

Q 建設工事に係る契約時期や工期の予定は。

A 令和7年9月定例会議での契約議決を目標としている。また、工期は21か月を見込んでいる。

プレミアム付商品券事業経費(商工費)
4200万円

Q 令和3年度と令和4年度に実施しているが、令和7年度との違いは。



A 令和3年度、4年度は、スマートフォン型とプリペイドカード型の2種類であったが、今回は、スマートフォン型のみとなる。また、大型店など全ての取扱店で利用できるA券と大型店を除くB券を用意したが、今回はB券のみになる。更に1口1万円で1万3千円分であったが、5千円で6千5百円分の予定。

Q B券のみと、1口5千円に変えた理由は。

A 地域の個店の活性化と最低購入額を低くし、購入しやすくした。

令和7年度予算案をチェック
税金の使い道について質問しました。

市長から令和7年度の予算案が提案され、3月17日・18日の2日間、予算特別委員会を開催し、皆さんに納めていただく税金の使い道を審査しました。その結果、本会議において全ての予算案が提案どおり可決され、令和7年度の税金の使い道が決まりました。予算特別委員会での質疑の内容の一部を紹介します。

令和7年度会計別予算

一般会計	379億2535万円
特別会計	
国民健康保険	82億2112万円
後期高齢者医療	27億5639万円
介護保険	79億6852万円
戸倉財産区	448万円
テレビ共同受信事業	4184万円
秋多都市計画事業武蔵引田駅北口土地区画整理事業	13億6157万円

公営企業会計	
下水道事業	42億9859万円

合計	625億7788万円
----	------------

(※千円以下切り捨て)

※下水道事業会計の予算の規模は、支出予算の総額として表記しています。

※金額は、表示単位未満を切り捨てしており、端数処理の関係で、合計数値が合わないことがあります。

移住・定住促進事業経費(総務費)
676万円

Q 令和6年度の市内案内の実施回数と移住・定住につながった人数は。

A 市内案内は、年度末までの予約を含め63回を見込んでいる。移住・定住施策による移住者は、11組23人。



Q 令和7年度の移住・定住の取組は。

A 武蔵五日市駅前の拠点施設フレア五日市での移住・定住相談窓口の新設、移住イベントへの新たな出展を考えている。

Q 移住者を対象に、移住・定住コンシェルジュに委嘱することだが、活動内容は。

A 10組20人を委嘱する予定。主な活動内容は移住・定住イベントへの参加、移住希望者に対する移住支援などを想定している。

文書事務経費(総務費)
3418万円

Q 新年度から文書管理システムの本格運用が始まるが、準備状況は。

A 8月1日に予定しているシステムの本格稼働までに運用ルールの整備や例規の改正を行う。



Q 文書の保存年限の見直しに伴い、永久保存の文書が増加することになった場合、文書管理システムの容量に問題はないか。

A 十分な容量が確保されているので、問題はないものと考えている。

公明党

賛成

行財政改革の断行と市民福祉の向上を目指す予算。市公式 LINE の導入、分野を横断した包括的支援、がん患者のアピアランスケア補助、団体への猫の不妊去勢手術助成を評価。産後ケア、未就園児預かり事業の予算増額は育児負担軽減に重要で推進を願う。地域公共交通はチョイソコ、るのバス2台の本格運行、盆堀・深沢地域タクシー助成、東秋留駅南口の折り返し場整備を評価し、持続可能な取組を求める。学校給食費無償化の継続、新学校給食センターの建設、小・中学校トイレの改修、物価高騰対策のデジタル商品券事業、福祉・農林業者支援、防犯対策の防犯機器購入補助を評価。子育て、自治体 DX、脱炭素、防災対策に対応、市民の命と暮らしを守る堅実な財政運営を期待。



原田議員

くさしぎ

反対

財政調整基金の残高が約11億7千万円の厳しいスタート。児童・生徒用タブレットの更新、情報システムの標準化等に対し国の財源保障が不十分。国策の押しつけで多額の財政負担と膨大な業務を抱え自治体は疲弊している。現場が望まない政策の押しつけに市は声を上げるべき。一方、市長の政策判断としての事業には社会情勢に対する認識の甘さを感じる。気候危機、人口減少等の現代社会の危機を乗り越えるために公共の役割が問われている。市民生活に不可欠な自治体の基本的な業務を、個々の職員が心の余裕をもって果たせる体制に立て直すことが喫緊の課題。移住・定住政策は人口減少社会での人の取り合いに過ぎない。政策の力点の置き方を見直すべき。

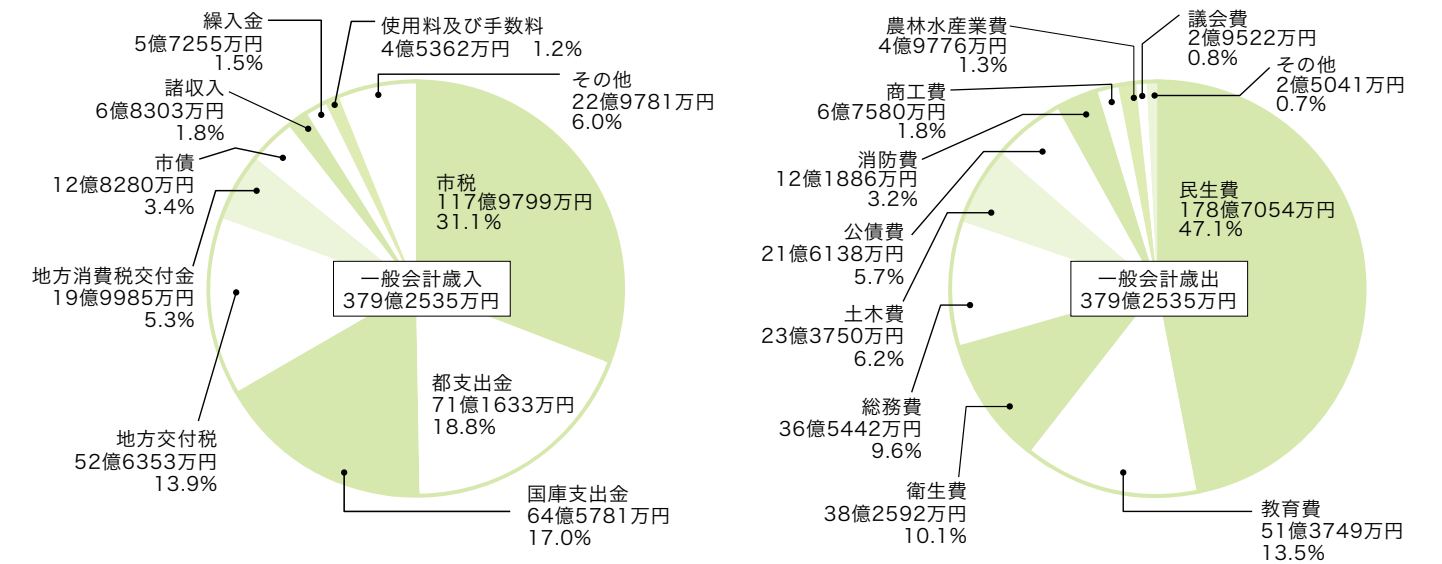


辻議員

令和7年度予算案をチェック

このような理由で一般会計予算案に賛成・反対しました。

定例会議最終日に、予算特別委員会で審査した結果を堀江武史委員長が報告し、令和7年度一般会計予算案の内容について、全会派が賛成又は反対の討論を行いました。討論の主な内容を掲載します。



※金額は、表示単位未満を切り捨てしており、端数処理の関係で、合計数値が合わないことがあります。

明るい未来を創る会

賛成

令和7年度一般会計予算は、379億2535万円で、前年度比33億5297万円、率にして9.7%増。歳入中市税は前年度比5億3592万円、率にして4.8%増。国、都支出金は児童手当給付、私立保育所運営、学校給食費無償化。市債は学校給食センター整備、小・中学校の施設整備及び道路整備事業を計上。市債残高は、一般会計、特別会計、公営企業会計及び一部事務組合の合計で利子を含め443億8400万1千円を見込んでいる。臨時財政対策債は、制度創設以来初めて発行額がなくなったが、基準財政需用額、普通交付税の増加により財政上の影響は生じない。歳出は、主要事業中新規、前年度からの継続市単独事業39件18億8493万6千円。この厳しい財政状況の中で、多様化する課題に重点的、効果的に対応している。



清水議員

リメンバー

反対

中学生の貧血検査が廃止されるとのこと。理由としては、貧血の子が実際には少なくなっていること等が挙げられた。ただ、検査を希望する実績は対象者の8割以上にも上る。この機会があることで、保護者や本人の安心につながったという面は確かにあったこと。ここで述べたいことは、今後はさらに、望まれる事業だったとしても、縮小していく、このようなことが、本市においては、非常に多くなってくるということ。市長の施政方針には、行財政改革の断行とある。そうであるならば、どうして、特別職の報酬が上がる議案が上程され、それに対して、賛成と手を挙げることができるのか。私にはどうしても理解、納得することはできない。



しょうじ議員

自由民主党志清会

賛成

物価高騰や厳しい財政状況の中にあっても、本予算には子育て支援、地域交通、公共施設整備、高齢者・障がい者支援等、市民の暮らしを支える施策が数多く盛り込まれ、会派からの要望も着実に反映されている。移住・定住促進事業においては、相談件数や移住者の増加が見られ、フレア五日市への窓口設置も予定されている。歳入では市税やふるさと納税の増収、自主財源確保の努力が見られる。歳出では教育・福祉・防災等の施策が適切に計上されており、過去最大規模の予算として積極的な政策展開が図られている。市制施行30周年、JR五日市線開業100周年を契機とする持続可能なまちづくりの推進に資する予算案として、賛成する。



国松議員

日本共産党あきる野市議団

反対

個人市民税は横ばい、市民の暮らしは苦しいままの予測。学校14校のトイレ改修の計画が先送りに。新学校給食センター建設は先送りの言い訳にならない。積極的に取り組むべき。18歳以上の中等度難聴者支援の取組を要望する。るのバス、チョイソコの本格導入が始まる。要望の強い土日の運行は検討するべき。公共施設の今後の在り方を検討する際、地域住民にとって、どういう役割を果たしてきた施設なのか、十分に考慮するべき。市民合意なく造られた五日市駅前拠点施設が市民の利益になるのか疑問。巨大開発の時代は過ぎ去っている。身の丈に合ったまちづくりこそ、考える必要がある。



関口議員

聞いてみたいな
こんなこと



一般質問

一般質問とは？

皆さんの生活にかかわる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活にかかわる内容はありますか？

質問議員 19 人 質問項目 51 件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。市ホームページの「市議会から」本会議録画中継」を検索するか、スマートフォンやタブレットで2次元コードを読み取りご覧ください。

避難所について



子籠 敏人
(自民党志清会)



Q 内閣府は昨年12月、自治体向けの避難所に関する取組指針・ガイドラインを改定した。そこで避難所における子どもへの配慮という点で伺いたい。改正されたガイドラインでは、チェックシートの中で、初動体制としてキッズスペース(子どもの遊び場)や学習のためのスペースの設置を検討することが記載された。これについて、市はどのように考えているのか。

A 今回の改正は、過去の災害での経験を反映させたもので、避難者から、子どもが安心できるスペースや遊び場の確保を求める声が上が

がったものと認識している。幼児が過ごせるスペースを確保できるかななどについては、施設ごとの造り等も踏まえた中で、避難者の生活空間の確保と併せて考えていく。

Q 子どもに関する備品についての考えは。

A 子どもが、普段の生活に近い環境でいられるためには、おもちゃなどを準備することも必要だと考えられる。また、子どもが避難所生活に飽きないよう、避難用グッズにおもちゃ類を準備してもらうことも有効と考える。

他に関係人口、有料ごみ袋、不登校対策について質問した。



通学路に関する環境整備について



浦野 治光
(自民党志清会)



Q 児童・生徒の登下校時の安全な通学路利用のため、現状と課題を踏まえた基本的な考え方とその取組は。

A 通学路の安全確保には、インフラ整備や地域の人々の防犯と見守り意識等が必要。主要な交差点等には、交通安全推進員の配置やスクールガードリーダーによる通学路の巡回、防犯カメラの設置などにより安全な環境づくりに努めている。

Q 各地域で児童・生徒を見守っているが、連携や課題整理などの主体はどこか。また、活動はボランティアだが、その際のジャンパーなどの実費程度の負担を検討してはいかがか。

A 地域の人々は学校と情報共有し自主的に見守りをしている。活動時の制服などは、独自に作っている地域もあ

るが、共通の帽子や腕章、ベスト等を用意し、提供している。

Q 通学路の環境整備には、道路の補修や改修などのハード面や安全教育や見守りなどのソフト面も必要。関係機関の役割と対策をシステム化する必要があると思うがいかがか。

A 関係機関との連携を強化していく中で、より安全性の高い対策を講じることができる体制づくりに取り組んでいく。

他に農業振興地域の在り方について質問した。



桜の木の植樹について



中村 一広
(自民党志清会)



Q 桜の木の植樹は、地域の人々も熱望しており、未来の世代に美しい風景を残し、地域の活性化にもつながると考える。

A 秋川沿いの遊歩道に桜の木を植樹し、未来の花見を楽しむ場所を作ってはいかがか。秋川沿いの桜の植栽延長は約2千メートルであり、新たな植栽については、道路と河川の段差が大きい崖地や洪水発生時の遊水池となるような地形が存在する等の課題があり、遊歩道の改良等が必要。河川管理上の災害や堤の保護等を考慮し、調査・研究していく。

Q 秋川駅南口も桜の木が伐採され、現在2本のみとなった。植樹してもらいたいがいかがか。

A 桜は街路樹としての機能だけでなく、自治会や商店会の親睦に寄与するものと認識している。維持管理を考慮し、当該地に適した樹種の検討を含め、自治会や商店会との協議を継続し、植樹の在り方を検討していく。

他に町内会・自治会の活性化について質問した。



危険な空き家対策について



村野 栄一
(自民党志清会)



老朽化した管理不全の空き家は倒壊や火災、不法侵入や動物の住処になるなどの危険を伴う状況で、景観にも悪影響を及ぼすと考える。現在市が把握している空き家の分類基準とそれぞれの集計結果は。

利活用や適切な管理の視点で不良度を判定。結果は、良好が107棟、やや不良が399棟、不良が91棟、除却が必要な不良が28棟、外観から判定困難が56棟。

特定空き家として認定するまでに要する時間は。

行政指導、勧告、命令そして代執行までの一連の手続の必要性を勘案し認定するため、順調にいつても1年程度の期間を要する。

特定空き家に認定される前の段階で、所有者に対する積極的な事前通知や指導などは検討しているのか。

管理不全な空き家に関する情報提供や相談があった場合は、現地を確認し、所有者等に向け、現地の写真や必要な改善内容の指摘により改善要請を行っている。

他に地域経済の活性化と、市の魅力発信、市民アンケート調査について質問した。



秋川高校跡地及び周辺地区のまちづくりについて



辻 よし子
(くさしぎ)



周辺地区は市街化区域編入の検討対象に入っていない。まず必要となる地権者との合意形成も進んでいないという事実には間違いはないか。

その通り。

メタセコイア並木について

は、高校設立時に植えられたことを考え、高校設置者の東京都に引き続きの管理を求めることはできないか。メタセコイアが植樹された経過や平成21年にメタセコイア並木の保全について都に要望を行っている経過を踏まえ、調整を行っていく。

メタセコイア並木について

他に木質バイオマスの利活用と木質バイオマスタウン構想等について質問した。



補聴器購入費助成について



松本 ゆき子
(共産党)



今年度東京都が、高齢者間ここのコミュニケーション支援事業を実施したことで、令和6年11月時点で23区11市2村が補聴器購入費助成を実施している。

本市も補聴器購入費助成を早急に行うべきと考えるが見解は。

引き続き、調査・研究している。

都内で18歳以上を助成対象とした自治体名と、その助成額等の内容は。

6自治体あり、要件は医師から必要と認められた人。

千代田区は18歳未満も含めた全年齢が対象で18歳以上に所得要件があり、5万円。世田谷区は住民税非課税世帯が対象で5万円。立川市、三鷹市、調布市、狛江市の4市は4万円。調布市は非課税世帯が対象、他の3市は所得要件がある。

21区7市2村の中で多くの自治体が対象としている年齢分類、また11市の多くの自治体が助成額としている助成額とその自治体数は。

21区7市2村のうち、最も多い年齢分類は65歳以上。11市のうち8市が4万円となっている。

他に歩道の改修、訪問介護について質問した。



通学路の交通安全対策について



関口 えり子
(共産党)



永田橋から氷沢橋までの歩道拡張工事の進捗状況は。

東京都によれば、用地取得済の区間から整備工事が進められている。引き続き、用地買収の状況に合わせ、歩道整備工事等を行う予定。

この道路は児童・生徒の通学路になっているが、正規の歩道がない。何度もひやとした現場を見ている。早期に歩道の拡幅工事を進めてほしいという声がある。市の見解は。

都と連絡調整を行う中で、今後の整備の見通しを確認する。要望については、都に伝えることの必要性を検討しながら対応する。

今後の進捗状況に合わせて、地域住民への説明会などは予定されているか。

現時点で、都から説明会を開催するといったことは聞いていない。

交通量の多い交差点などに見守りを増やしてほしいという要望が多く寄せられている。市の見解は。

現在、交通量の多い主要な交差点等35か所に交通安全推進員を配置しているが、子どもたちの見守りには地域の協力が不可欠であることから、地域の協力を得ながら通学路の安全確保に努めていく。

他に平和の取組について質問した。



誰もがいきいきと暮らせるまちづくりについて

たばたあずみ
(共産党)



地域公共交通協議会において、るのバスのルート変更に伴う雨間南郷地区と草花台パークハイツの運行休止案が提案された。

Q EV車への買替により走行可能距離が減るため的一部運行休止。EV車である必要性は。

A ゼロカーボンシティへの挑戦を掲げていること、西東京バスのCSRの取組として環境保全への取組を掲げていることから判断。故障箇所の特定、修繕等の対応も速やかに行える。

Q 休止するのなら代替手段が必要になる。考えている



休止するのなら代替手段が必要になる。考えている。

他に武蔵引田駅北口土地区画整理事業について質問した。

A 代替手段の在り方は今後の検討課題。デマンド交通での対応、費用についても検討課題として認識している。

Q 市民サービスを低下させないためには、るのバスの台数を3台にし、現行の地域を維持しつつ、全体のルートの再編を検討すべきではないか。

A るのバス再編案には乗務員等の確保がさらに困難な状況にあることへの対応も含まれる。運行休止だけでなく、これまでの課題も踏まえた新たなルートの追加も行いながら、全体のルートの再編案として現時点において示している。

職員構成について



国松まさき
(自民党志清会)



全国的に公務員志望者の減少や若手職員の離職増加が進む中、本市においても職員の年齢別構成や管理職の担い手不足が課題と考える。こうした状況のもと、人材確保と適正な職員管理の方針について伺う。

Q 現在の本市の職員の年齢別構成と、それに基づく管理職不足の課題の認識は。

A 管理職を担う40歳代半ばの職員が少なく、年齢構成の偏りは、組織内での知識や経験の継承に支障を来す。また、管理職の担い手不足は市政運営に大きく影響を及ぼすと認識。次世代の人材育成を進め、昇任試験制



度の在り方も検討する。

Q 今後の人材確保と管理職の育成・登用にに向けた具体的な取組は。

A 今年度は経験者採用の年齢上限を45歳まで引き上げた。所属長による人材育成推進計画・実施報告事業を継続的に実施している。

Q 昇任試験制度の在り方を検討するとのことだが、具体的にどのようなことを考えているか。

A 係長職の職員から、選考によって課長補佐の職に昇任させ、一定期間、課長が行う職務を補佐する中で、管理職に登用していくことを考えている。

長寿犬・長寿猫の表彰について

堀江 武史
(自民党志清会)



Q 本市には、約4千4百頭の犬の登録件数があり、人口比率では都内上位で、犬や猫と一緒に住みやすい環境にある。東京都獣医師会では、平成30年度より、犬猫の適正飼育や終生飼養を普及啓発し、動物愛護に関わる意識向上を図る目的として、長寿犬・長寿猫とその飼い主を表彰している。本市でも獣医師会と連携し表彰してはどうか。

A 犬猫の適正飼育及び終生飼養の普及・啓発の観点から、有意義な取組であるので、実施に向けて検討していく。具体には、市制施行30周年記念事業として開催するイベントでの実施に向けて調整していく。また、表彰基準等については、獣医師会に意見を聴くとともに、飼い猫の年齢等の把握について、協力を求めていく。

犬猫の適正飼育及び終生飼養の普及・啓発の観点から、有意義な取組であるので、実施に向けて検討していく。具体には、市制施行30周年記念事業として開催するイベントでの実施に向けて調整していく。また、表彰基準等については、獣医師会に意見を聴くとともに、飼い猫の年齢等の把握について、協力を求めていく。



Q 市制施行30周年記念事業として開催するイベントはどのようなイベントか。

A あきる野夏まつり、健康のつどい、産業祭のいずれかを想定し、担当課等と調整していく。

Q 長寿犬・長寿猫の対象は、一括して年齢で区切るのか。他市の事例を参考に、対象年齢について獣医師会と協議していきたい。

A 他に川の日の取組について質問した。

感染症による学級閉鎖の現状について



よしざわゆたか
(自民党志清会)



令和6年度の秋から冬にかけて、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスによる感染症の流行により、市内小・中学校で学級閉鎖や学年閉鎖が相次いでいると聞いている。

Q 今年度、学校において流行している主な感染症ウイルスの種類は。

A 令和6年度に児童・生徒が罹患した感染症のほとんどがインフルエンザである。

Q 新型コロナウイルス感染症が第2類であった頃と比較し、今年度の感染症の状況はどのようになっているのか。

A 第2類感染症に分類されていた期間については、インフルエンザ様疾患として保健所に報告した学級閉鎖はないが、第5類感染症に移行した令和5年度の学級閉鎖件数は、年間で202学級、令和6年度は、令和7

年2月末時点で計27学級となっている。

Q 学年末に当たって学級閉鎖や学年閉鎖の影響はないのか。

A 本年1月下旬以降、学級閉鎖の報告がされていないことや、例年3月以降、感染者数は減少していることから、現時点では、学習活動へ影響が及ぶような状況が生じることはないと考えている。

他に都道165号伊奈福生線の進捗状況、網代橋撤去工事の進捗状況について質問した。



こどもまんなか社会の実現に向けた施策について



原田 ひろこ
(公明党)



子どもたちの意見を十分に聴いた施策の推進、切れない子育て・教育支援の充実が健全な成長と発達に不可欠である。

びや生活を通じた学びと育ちを基礎としたスタートカリキュラムの充実を図っていく。

Q 発達に関する課題には、5歳児健診の実施が有効と考えるが、市の見解は。

A 5歳児健診の必要性を認識し、こども家庭庁の情報を確認。今後、医師会とも情報共有を図っていく。

Q こども計画策定も含めた、子どもたちの意見を反映させるための取組は。

A 計画策定に伴うアンケートを小学5年生、中学2年生、15歳から29歳までを対象に実施。意見が多くでるようウェブ回答も可能とした。

Q 幼保小の連携、^{*}架け橋プログラム^{*}の推進について、進捗や具体的な取組は。

A 今年度は実務者会議で連携強化の情報交換を実施。7年度は就学前の施設での遊

QA 今後の意見を聴く予定は。公立保育園の5歳児クラス、学習・生活支援事業や学童クラブで予定。その他の年代の意見聴取も今後、実施方法など検討していきたい。



他に誰もが安心して搾乳ができる環境づくり、市民生活を守るための包括的支援体制の強化、平和への取組について質問した。

快適なバス待ち環境の整備について



大久保 昌代
(公明党)



バス停周辺にベンチや屋根が設置されていないため、風雨や暑さ、寒さにさらされるなど、快適性に欠ける状況がある。

Q 安全性や快適性を向上させるための改善計画は。

A 策定中の地域公共交通計画の安全・安心な公共交通利用環境の構築の施策の中で、停留所のベンチや上屋の整備・改善などについて検討する。

Q チョイスコ停留所についての考え方は。

A デマンド交通は待ち時間が生じるバスとは異なり、利用者からの予約に基づき利用時間が決定される。地域からの要望等を踏まえ、停留所の追加に向けた調整を進めており、そのことでより快適な利用環境が確保されるものと考えている。

他にゼロカーボンシティの取組、民生・児童委員活動の推進、電子図書館の導入について質問した。



A それらの整備の一環でバス停上屋及びベンチの設置を予定している。

図書館の利用状況について



ひはら 省吾
(自民党志清会)



令和7年度の教育方針において、いつでも・どこでも・だれもが学び、情報が活用できる図書館の実現を目指すこととした。

Q 当市でのコミックの取扱いについて、どのような決まりがあるのか。

A あきる野市図書館資料収集要領に基づき基準を定め、選定を行っている。漫画、コミックは積極的に収集するものではないが、市民から要望があり、すでに完結しているもので、誰もが知っている等、広く市民に評価されている作品から選定するとしている。

Q あきる野市出身、市内で活躍している作家の作品展示を行うとのことだが、どのような取組か。

A 市内在住、本市出身の作家の作品を展示し、市民に知ってもらい、本の魅力を感じてもらえるような取組を考えている。また、市制施行30周年事業の一環として、市内の図書館全4館に作品の展示を計画している。

Q 市制施行30周年事業後の展開について、どのような検討をしているのか。

A 今後あきる野市にゆかりのある作家の展示等も考えている。



他に子どもへの特殊詐欺防止教育について質問した。

放課後子ども教室の実施状況について



窪島 成一
(自民党志清会)



令和5年12月定例会議で質問した放課後の子どもたちの居場所づくりの取組の一つである放課後子ども教室のその後の状況について伺う。

Q 未設置校であった前田小学校の状況は。

A 前田小学校については、地域の人々や学校に協力を働きかけるとともに、運営コーディネーター、安全管理員及びボランティアの協力により10月23日に開設することができた。毎週水曜日を活動日とし、設置した当初は20人だった児童数が、令和6年12月末現在で67人となっている。

Q 暑さで活動できない時期の状況は。

A 登録児童数の多い学校において夏季休業期間を除く6月から9月にかけて、水曜日に加え、もう1日活動日を設け実施した。

Q 放課後子ども教室の活動時間、活動場所、活動内容は。

A 活動時間は下校時から午後4時まで。活動場所は体育館、校庭、特別教室等。内容は自由遊びとなるが、宿題をやる児童など様々になる。



令和7年度施政方針について



清水 晃
(明るい未来)



Q 基本的な方針の考え方及び市民生活と市を取り巻く諸課題の把握とその対応に向けた取組は。

A 方針の基本的考え方としては、物価高騰の影響を受ける市民や事業者への支援、人口減少対策と地域経済の活性化、行財政改革の断行。対応に向けた取組としては、防犯機器購入、がん患者へのアピアランスケア支援等が挙げられる。

Q DXの推進は、行財政改革に深く関わるのか。

A 行財政改革の7つの推進項目の1つがDX推進。例えば行政手続のオンライン申請推進で事務の効率化、経費削減、市民の利便性向上により、行財政改革が進む。

Q 第2次総合計画等を踏まえた基本施策中、公共施設等の総合管理について、136施設の再編等に関する実施計画の策定は。

A 96施設は、令和5年度末に計画策定。そのほか40施設は、令和7年度中に実施計画を策定し、順次、再編等に着手。



学童クラブの質の向上について



中村のりひと
(明るい未来)



Q 各学童クラブへの指導監査や第三者評価は行われているのか。行われているのであれば、その内容は。

A 行っていない。日常業務を通じて、必要な助言、指導等を行っている。

Q 東京都の認証学童クラブ制度では第三者評価を基本にしている。他自治体では第三者評価を受けている学童クラブもある。本市では実施されていないが、第三者評価を受けることのメリット、デメリットをどのように捉えているか。

A 制度は、一般的な第三者評価よりも評価項目を増やし実施する東京都福祉サービス第三者評価を受審することが要件。メリットは事業者の施設運営等の公表により、利用者が利用施設を選択できることや事業者のサービスの質が向上するこ



と。デメリットは第三者評価を受けるための事務作業時間や財政的な負担など。

Q 都は令和7年度予算に認証学童クラブ制度の予算を計上している。本市で導入すべきと考えるが、所見を伺う。

A 都の制度を導入すると専用区画の拡大に伴う待機児童の発生や支援員確保の課題が生じる。引き続き、待機児童対策に取り組みながら、都制度の導入の効果と課題について調査・研究する。

心理専門職の重要性について



しょうじ さとし
(リメンバー)



Q 職員がメンタルに不調を感じた際、心理の有資格者に相談できる。その意義は。

A 心の悩みを抱える職員に対し、同僚や上司とは異なった専門職として、客観的な視点で相談を受け、助言ができるなど、意義あるものと認識する。

Q 市民であればなたでもといった具合に、市民誰もが心理の専門職に相談できる機会はあるのか。

A 正規職員の心理の専門職は配置していないため、その機会はないと言える。

Q ひとり親世帯の子どもたち



他に豊かな自然と調和したまち、予算編成、東京都認証学童クラブ制度について質問した。

PTAについて



天野 正昭
(自民党志清会)



Q 五日市小学校では、昨年からPTAが廃止されている。現在の保護者が決めたこととはいえ、歴史ある小学校のPTAが簡単に廃止されたことに違和感を覚えている。

A 五日市小学校ではPTAが廃止されているが、市としてはどのように把握しているのか。

Q 地域や歴代PTA会長等から問合せがあったため、当該校にPTAの解散に至った経緯について説明を求めた。また、PTAの解散により、学校や保護者との連携に生じる課題等について、事前にどのような検討がされたか確認し、大きな影響が出ないよう助言した。

Q 他的小学校でも同様の動きがある場合、市として何か支援策を考えているのか。

A PTAの意義や役割があることを踏まえ、各学校に対し、保護者と学校が子どもたちへよりよい教育のために互いに協力できるよう助言していく。

他に防犯カメラの設置補助事業について質問した。



No.3

議員定数に関する特別委員会を設置しました

令和7年3月定例会議の最終日に議員定数に関する特別委員会設置に関する動議が提出され、議員全員が賛成し、可決しました。

【委員長】 子籠敏人
 【副委員長】 増崎俊宏
 【委員】 国松まさき しょうじさとし
 たばたあずみ 辻よし子
 中村一広 中村のりひと

特別委員会の開催日程等は、市議会ホームページでお知らせします。
 どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。

No.2

議会運営委員会委員の選任を行いました

令和7年第1回臨時会議において、大久保昌代議員に代わり、原田ひろこ議員を議会運営委員会委員に選任しました。

No.1

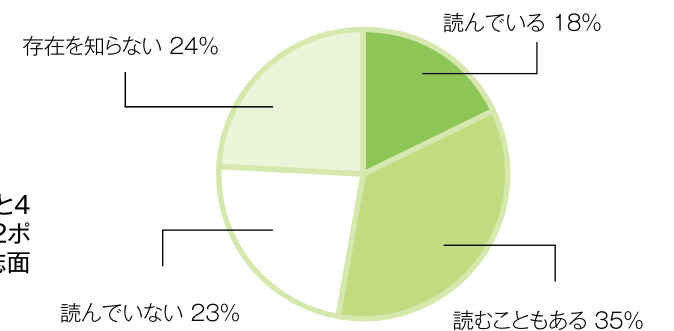
市民アンケート調査の集計結果をお知らせします

昨年7月にあきる野市で実施した市民アンケート調査について、議会だより「ギカイの時間」に関する設問の集計結果の一部をご紹介します。

●「ギカイの時間」（年4回発行）を読んでいますか？

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 読んでいる | 18% (21%) |
| 2. 読むこともある | 35% (36%) |
| 3. 読んでいない | 23% (21%) |
| 4. 存在を知らない | 24% (22%) |

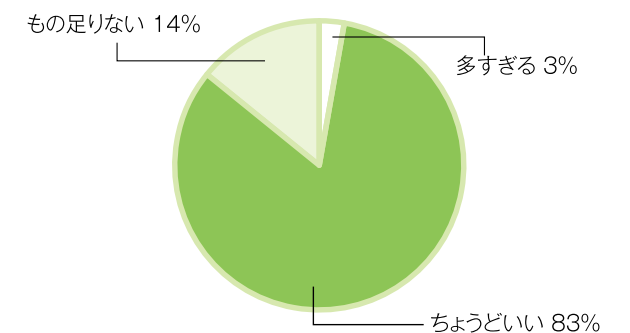
読んでいる方が半数を超えましたが、前回と比べると4ポイント減になりました。また、存在を知らない方が2ポイント増えています。「読みたい」と思ってもらえる誌面の工夫と共に、配付のあり方についても検討します。



●「ギカイの時間」の情報量は？

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 多すぎる | 3% (2%) |
| 2. ちょうどいい | 83% (74%) |
| 3. もの足りない | 14% (24%) |

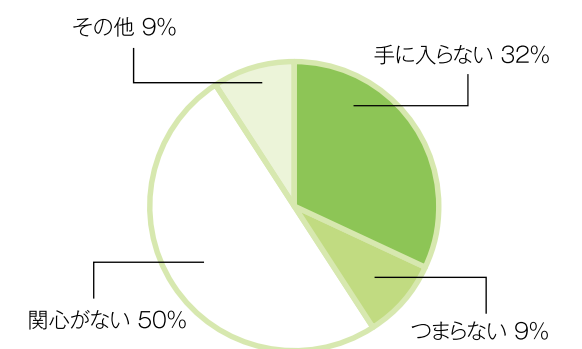
前回に比べて「もの足りない」が大きく減り、「ちょうどいい」が8割を超えました。議案の賛否表や予算・決算の質疑・答弁を載せるなど、新たな工夫をした結果かもしれません。読みやすさと内容の充実とのバランスを考えながら、更なる工夫に努めていきます。



●読まない理由は何ですか？

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 手に入らない | 32% (38%) |
| 2. つまらない | 9% (11%) |
| 3. 関心がない | 50% (37%) |
| 4. その他 | 9% (14%) |

前回に比べて「手に入らない」は6ポイント減少したものの、「関心がない」が大きく増えて半数になってしまいました。「ギカイの時間」の改善はもとより、市議会の活動自体にもっと関心を持ってもらえるための努力をしていきます。



今回の調査結果を踏まえ、より一層市民にわかりやすく身近な市議会・「ギカイの時間」にできるように、議会全体で取り組んでまいります。なお、詳しいアンケート集計結果は今後ホームページに掲載していきます。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。

※無回答を除いて集計しています。

※()内は前回・平成28年に行った議会アンケートの集計結果。

あきる野市議会活動レポート

議員研修会



公共交通に関する研修を1月30日及び3月28日に行いました。

- ・1月30日 「持続可能な地域構造と公共交通の役割」
 講師 東京都立大学教授 饗庭 伸氏
- ・3月28日 「まちづくりの視点から、これからの地域交通を考える」
 講師 名古屋大学客員教授 安藤 章氏

秋川流域市町村議会議員大会(意見発表会)



あきる野市、日の出町、檜原村の議会で構成される秋川流域市町村議会正副議長会主催の議員による意見発表会が2月6日に檜原村役場で行われ、本市議会からは、関口えり子議員、中村一広議員、原田ひろこ議員が意見発表を行いました。